


**PRESS RELEASE**

岡山大学記者クラブ

文部科学記者会

科学記者会

御中

令和 5 年 6 月 28 日

岡 山 大 学

## 医療者のためのアートワークショップ ~アートが導く対話、気づき、そしてケア~

### ◆発表のポイント

- ・現代社会の正解なき課題や悩みに対応し人生を豊かにするためには、様々な「気づき」と「振り返り」が必要である。
- ・アートを利用したワークショップで、対話を軸とした「気づき」と「振り返り」の重要性を知ることができる。
- ・医学生 600 名以上の実績から医療者向けのワークショップを開発し、今後広く展開する予定である。

医療の進歩により、様々な疾患の治療が可能になってきました。しかし、科学的根拠のある治療は少なく、実際は正解のない医療が 80%以上とされています。患者さんごとに病態、社会的背景、性格など全てが異なるからです。これからの医療には、この正解なき課題に対応する力や共感力などの向上が必要で、そこには、様々な「気づき」と「振り返り」が鍵となります。そこで、岡山大学学術研究院医歯薬学域（医）の木股敬裕教授と小比賀美香子講師は、2020 年より岡山県立美術館の協力のもと、欧米の対話を用いた鑑賞に加えデッサンと学生によるアートについてのプレゼン授業を日本で初めて医学生に導入したところ、次世代の良き医療者を育てる意味で高い満足度を得ることができました。地域や全国のマスコミにも取りあげられました。

この結果から、医療職の方々にこそこの試みが必要と考え、福武教育文化振興財団の支援を得て新たなアートを利用したワークショップの開発を行いました。やはり目的は「気づき」と「振り返り」で、準備段階でご参加していただいた方々からは、普通の研修やセミナーと全く異なり深く心の中に余韻として残る貴重な時間であったとコメントをいただいています。ついでに今秋から、県立美術館を会場に公募形式で本格的に実施する予定です。先の見えない社会で生き抜く力が必要とされている現在、この試みは一つの鍵になるだけでなく人生を豊かにする可能性も含まれ、今後、医療のみならず一般社会人への展開も視野に入れていきます。アート豊かな岡山から日本初のアートワークショップを発信する意味は大きいと考えています。

### ◆研究者からのひとこと

これまで、600 名以上の医学部生に本授業を行って来ました。常に勉強で多忙な彼らにとって、この非日常的な授業は非常に刺激的で、様々な「気づき」により、自分自身を深く考えるようになっていきます。また、対話を含めてワークがとても楽しかったと言ってきて嬉しい限りです。現代人はみんな悩んでいます。でも対話によりその解決策が見つかるかもしれません。どなたでも参加する価値はありますし、参加してほしいと思っています。



木股教授



## PRESS RELEASE

### ■発表内容

#### <現状>

我々は、医学教育におけるビジュアルアートの役割と価値を認識し、その導入から改良そして成果を報告してきた。目的は、良き医療者の育成に必要な観察力、共感力、チーム構築力、会話力、復活力、熱意や感性の強化である。さらに重視すべき点は、アート・他者・自己の循環の中で起こる対話による“気づき”で、最終的には自己との対話や内観「振り返り」である。そこで、我々は“気づき”、そして“振り返り”に注視し授業の内容をさらに発展させた。

#### <研究成果の内容>

授業は、岡山大学医学部4～5年生を対象とし次の①～④の実習を行う。①デッサン：デッサン専門家の下で道具や表現方法を学び、実際の果物や人体各部位のデッサンの演習を行う。②岡山県立美術館ワーク：美術館の収蔵作品を軸とし専門学芸員の下にブラインドトークと対話を用いた鑑賞を行う。③学生プレゼン：過去の経験や生き方を反映する作品を選択しグループ内で対話する。絵画、写真、彫刻、詩、小説、歌詞、自作アートなど何でも構わない。④授業の最後に、各3部門に対する自由記述式のアンケート調査を実施する。

アンケート結果の抜粋から「振り返り」に関しては、「自分がいかなる人間かを改めて知るとともに、過去と未来の繋がりを感じた」「絵画から感じたことをより深く考察することで自分の人生観が深まった」「他人の人生観や価値観を知り自分の人生観を改めて理解できた」「多面的に物事を見ることで人生が豊かになることが分かった」などの意見があり、また今後の医師としての姿勢に関しては：「正解のない議論は、語り手の価値観を受け取り患者の治療に繋がる」「患者とよく話し思いを聞き癒すことが大切と思う」「様々な葛藤や思いがあり日々の生活を過ごしていることが分かった。患者さんも同じと思うので、それを聞き出せる医師になりたい」などのコメントが寄せられた。また、過去のアンケートでも、非常に高い満足度と医学教育に対する重要性が得られている。

3部門全てがシラバス外の非日常体験となり、楽しみになっている。デッサンでは、表現力、多面的視点、自己性格の自覚等の「気づき」があげられ、県美ワークは、観察力、共有・共感、多様な視点、批判的思考力、自己の考えの再自覚等の「気づき」がある。プレゼンでは、人生や経験、今考えていることや大切にしていることを「振り返り」、さらに他者と対話することで、新たな深い「気づき」が生まれる。医療とは、ケアとは、学びとは、今後の生き方などを考える機会になる。さらに正解なき対話は、現場での正解なき医療実践に対応する能力の自覚に結びつくと考えている。

#### <社会的な意義>

“気づき”、そして“振り返り”は、学生だけでなく医療職を含めた社会人にとっても人生100年を豊かにする可能性を含んでいる。我々は福武教育文化振興財団の助成を得て医療職や社会人を対象としたビジュアルアートセミナー、Wellness & Artistic Okayama (WellArt, Okayama)の試みを県立美術館と共同で開始した。AIやChatAIなどが登場してきた現在、専門性のみの追求や正解を探し求めることだけではなく、正解のない課題や医療を含め人を対象とする多くの問題に対応していく能力の重要性はますます増してくると思われ、本事業の社会的意義は大きい。



## PRESS RELEASE

### ■論文情報

- 1) 大塚益美、松本洋、木股敬裕：医学教育における「デッサン教室」導入の試み—デッサンからアートの昇華—、岡山医学会雑誌 130, 81–84, 2018.
- 2) 松本洋、北口洋平、木股敬裕、大塚益美：医学における「ビジュアルアート教育」の導入：第2ステップ—アートから診る力、伝える力を養う—、岡山医学会雑誌 132, 98–101, 2020.
- 3) 木股敬裕、小比賀美香子、久保卓也、大塚益美、岡本裕子、福富幸、松本洋：医学における「ビジュアルアート教育」の展開：第3ステップ—岡山県立美術館の協力による対話型鑑賞の導入— 岡山医学会雑誌, 2023, in press.

### ■研究資金

本研究は、以下の支援を受けて実施しました。

- 1) JSPS 科研費 2021 年度基盤研究 (C)、JP21K10327、代表小比賀美香子：医学における「ビジュアルアート教育」に関する調査研究
- 2) 公益財団法人 福武教育文化振興財団, 2022 年度、2023 年度特定助成（先進的事業助成）代表木股敬裕：健康と豊かな人生を創るためのビジュアルアート教育

#### <お問い合わせ>

岡山大学学術研究院医歯薬学域 形成再建外科学  
教授 木股敬裕

(電話番号) 086-235-7212

(FAX) 086-235-7210



岡山大学  
OKAYAMA UNIVERSITY

岡山大学は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

